中国内モンゴル自治区牧畜地域におけるモンゴル族と漢族の関係性

人間・環境学研究科　修士課程　1 年
呉人　花
中国
2018 年 8 月 14 日～2018 年 9 月 25 日

計画の概要

本計画は中国内モンゴル自治区（以下、内モンゴル）の牧畜地域に焦点をあて、そこに居住する少数民族モンゴル族が、時に隣接し時に混在して居住する漢族との間に主に生業の面でどのような関係性を保持し、共生を図っているかを明らかにするための第一段階として、調査地の選定・実態把握の予備調査を実施することを目的とする。内モンゴルの牧畜地域においては、モンゴル族同様に牧畜を営む牧民漢族や、日用品や家畜の売買のために出入りする商人漢族等の様々な漢族が存在し、モンゴル族は伝統的な牧畜業に主軸を置きながらも漢族と多分に接触しながら暮らしていることが想定される。今回の渡航では牧畜業が盛んなシリンゴル盟における a)調査地域（数世帯からなる牧畜集落が望ましい）の選定と、その地域でのフィールドワークを通して b)牧畜形態及び(c)漢族との接触機会の把握の 3 点を到達目標とする。

成果

a)　調査地域の選定

シリンゴル盟の南部に位置する正藍旗の一牧畜集落を、調査地として選定した。選定理由として、本集落は 8 世帯のモンゴル族牧畜民が住んでおり、モンゴル族の牧畜民の暮らしがわかる一方で、近隣には漢族の牧畜民や漢族が暮らす町が存在し、モンゴル族と漢族の接触機会は日常的に見られたことが挙げられる。また、今回滞在させていただいた牧畜民の家族と良好な関係を築けたことに加え、近隣の集落においても牧畜民の方々と知り合うことができたため、引き続き調査可能と考えた。

b)　牧畜形態の把握

本集落の牧畜民は、定住家屋に住み、各世帯に配分された土地で牛 30～40 頭を放牧している他、世帯によっては馬・豚を所有していた。報告者が滞在した８月下旬～９月中旬は、冬の家畜の餌とするための草刈と牛を売却する時期であった。まず、草刈は１年で最

も重要かつ忙しい仕事と言われており、報告者も草刈を手伝いながら、牧畜民にとっての草の重要性や昔と今の草刈の違い等をヒアリングしたり、草刈に関連した土地の貸し借りや人々の協力関係等の事象を観察したりすることができた。次に、牧畜民にとっての主な現金収入の手段である牛の売却は、牛が最も肥えている夏の終わり頃頻繁に家畜業者（漢族が多かったが、モンゴル族の場合もあり）が集落を訪れ、牛を見ながら値段交渉が行われていた。牧畜民の間では、牛の市場価格や家畜業者に好まれる牛の特徴等の情報が日々やり取りされていた。今回、通常の牧畜民の生活に加え、草刈と牛の売却という牧畜民にとっての重要な事象を観察できたことで、牧畜民の経済活動や土地に対する考えが垣間見えたことは非常に大きな収穫であった。

c)　漢族との接触機会の把握

モンゴル族と漢族の接触は先述した家畜売買の他、町や祭りにおいても見られた。滞在した集落から車で 15 分程の距離に漢族が住む町があり、モンゴル族の牧畜民は日用品や食料品の購入等のため日常的に町に行き来していた。また、モンゴル族の伝統的な祭りにおいては漢族が競馬に出走していたり、モンゴル相撲を観戦しに来ていたりとモンゴル族の文化と思われていた行事にも漢族が参加するケースが見受けられた。報告者が渡航前に考えていたよりもはるかに、モンゴル族が漢族と接触することは現地の生活において当たり前なことであるという印象を受けた一方、実際お互いがどのように認識しているのか等の深いところまでは理解できなかった。今後の調査においては、今回観察した牧畜業のプロセスをより細かく観察し、そこからみえるモンゴル族と漢族の牧畜を軸とした関わりを考察していきたい。

写真１：刈り取られた草

写真２：牛を放牧中の一コマ